

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591		
法人名	社会福祉法人 樹心会		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 (木曾の家)		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地		
自己評価作成日	平成30年8月8日	評価結果市町村受理日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2172600591-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・月1回の認知症カフェを障害者施設と合同で実施している。他のグループホームの利用者も参加してくれている。
 ・年数回、季節に合った外出イベント・外食を実施。
 ・施設内外の研修を取り入れ、研修も出来るだけ多くの職員が受けられるよう時間を確保している。積極的に外部研修に参加している。
 ・共用型のディサービス・ショートステイを運営しており、多様な人間関係がある生活環境の中で、社会性を保ちつつ利用者様が安心して楽しく過ごせる空間で利用して頂いている。
 ・認知症の個別ケアに力を入れており、施設内の庭木の剪定や畑の世話、洗濯干しや調理など、利用者個々に馴染みのある活動を継続的に行っていたりするような支援環境を整備しケアに反映させている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は3ユニットを運営しており、利用者は、日常的にユニット間を行き来し、お隣さん感覚で暮らしている。また、農作業や庭木の剪定等で入居前の経験を活かしたり、料理、洗濯物干しなど、できる仕事を職員と共にやっている。管理者と職員は、利用者自身が生きがいを見つけ、必要とされていると感じられるよう、支援に取り組み、家族は、利用者の生活態度の変化に驚いている。職員は、計画ありきではなく、支援していく中で、より良い方法を見出しながら、利用者満足と家族の喜びにつなげ、笑顔の絶えない毎日を送れるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(木曽の家)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳に重きを置き、尊厳を生かしたケアの実践のための工夫や、必要に応じて家族の協力もお願いしている。	基本理念を「人として尊厳される」とし、「人権尊重」「人命尊重」を理解し、職員は日々、ケアを振り返り、話し合いながら実践している。また、日常的に利用者が地域と関わりながら、生きがいを実感できるよう、支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護予防拠点を地域のサークル活動に開放し、地域の活動に利用者様も時折参加させて頂いている。	回覧板で地域の情報を集め、利用者が地域活動に参加できるよう努めている。介護予防拠点場所として、スペースを地域のサークル活動に開放し、利用者も参加して、交流している。中・高生の介護体験、ボランティア活動の受け入れも行っている。	地域の防災訓練や行事には、できる限り参加し、地域とのつきあいを深めることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生ボランティアや校外学習などの学校行事を積極的に受入、認知症・介護についてふれてもらう機会を提供するように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	都度、事業所の事業現状の報告をし、家族様・外部機関の方の意見や考え方を聞いている。	隔月に開催し、家族、利用者、行政、地域住民が参加をしている。行事報告や運営状況、ヒヤリハット事例などについて、意見交換をしている。家族が参加しやすい土曜日に開き、意見や要望を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて電話等で相互に情報交換できる関係を作っている。	行政とは、困難事例や空き情報など、日常的に密に情報交換し、運営推進会議の際に、介護保険の動向について説明を受けている。行政主催の会議には、積極的に参加し、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回外部講師を招き、虐待・身体拘束について講習を受けている。	日々、職員間で身体拘束について話し合い、外部講師を活用した学習会も開いている。委員会も、年間開催計画が立てられている。常に利用者の思いをくみ取り、寄り添うケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回外部講師を招き、虐待・身体拘束について講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様が複数名在籍していることもあり、職員に制度の認知は出来ていると感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族様の考えや価値観を聞いた後に、具体的な利用方法やケア内容について考えている。その上で納得して頂いた後に契約締結を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様や利用者様との関係作りを大切にし、信頼関係の構築に努めている。毎月担当職員が利用者様の様子を手紙に書いて郵送したり、毎月のお便りも明るく楽しい雰囲気が伝わるよう工夫している。	管理者と職員は、家族の訪問時に、利用者の様子を伝え、家族が遠慮なく要望が出せる関係づくりに努め、情報はホーム全体で共有している。毎月発行の通信にも、利用者の暮らしの様子や担当職員からのコメントを記述して家族に送付し、要望も聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、話し易い雰囲気や関係を作っている。	管理者が、現場業務に携わり、職員の意見や要望を受け、改善できることは迅速に対応し、課題によっては組織的に話し合い、解決をしている。明るく、風通しの良い職場環境作りに努め、職員定着につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士のバランスに配慮し職員配置をしたり、指導体制が行き届くように配慮されており、職員の意識向上に繋がるよう工夫されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ・資格取得の支援・研修参加の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修に管理者含め職員を積極的に派遣し、同業他社や福祉に携わる多職種との接点を持てる機会を作っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人だけへのアプローチではなく、家族様等へも多角的にアプローチし、本人像の逸早い理解につながるよう努めている。より早い段階で本人像を掴んでいく事で、より早く本人様との信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に利用者本人様についての情報を引き出す上で、自然な流れで意見や要望・希望などを引き出せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には、主に家族様のサービスに対する希望・要望が表面化することが多いが、それだけを鵜呑みにせずサービスを受けている利用者様の様子等から本人の思いを汲み取りケアやサービスに反映していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にも生活上の家事参加を積極的に促し、お互いが構成員としての関係性になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人様を支援する者としての関係性を保っていけるよう、互いに率直に意見交換できる関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部との接触や外出が困難な方もみえる為、馴染みのものを出来るだけ施設生活の中に取り入れる工夫をしている。	訪問者が、気持ちよく利用者と過ごし、再来につながる声掛けで、馴染みの関係の継続を支援している。退職した職員の訪問や、認知症カフェで顔馴染みになった人との交流も大切にしている。馴染みの場所に、ドライブを兼ねて出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活暦やADLに応じ、利用者同士の関係性が生まれやすい活動の提供や座席配置などの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自施設での利用者の困り込みをせず、必要に応じて他施設のサービス機関への紹介や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のこれまでの生活歴や日々の生活の中での何気ない会話や表情、動作等から暮らし方の希望、思いや意向を把握している。それらを職員同士が共有し、ケアへ反映していけるよう努めている。	入居前の利用者情報と、日々のケアや会話、あらゆる場面で思いや意向を把握するよう努めている。知り得た情報を職員間で共有し、利用者中心の支援に取り組んでいる。時間をかけて利用者に寄り添い、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様を始め、家族様からの聞き取りを参考とし、これまでの生活歴や生活環境、本人様の趣味や趣向等を把握出来るように努めている。また日常生活の中での会話等からも情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を把握する為、24時間シートを作成している。月毎にADL、モニタリングのチェック表を活用し、本人様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当職員を設け、月毎に開催するユニットでの会議、サービス担当者会議でケアマネージャー、介護職員が家族様、本人様の思いや意見を取り入れた介護計画書の作成に努めている。	計画作成時に、本人・家族に、ケアについての意見や要望を求めている。担当者の意見と介護記録を参考に、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。作成した計画は、家族に説明し同意を得ている。できる限り、家族が参加して、計画作りができるよう工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々にケース記録を作成し、ケアの実践状況、気づきや工夫を詳細に記入している。また記録とは別に独自の申し送りノートや行日誌を活用し、職員同士が情報の共有が行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや生活歴に応じ、馴染みの活動の機会の提供(戸外での剪定・畑・花壇・草取り)(戸内での裁縫や洗濯・料理などの家事)を積極的に取り入れるようにしている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを地域行事の場として提供しており、その活動に興味がある利用者などには参加を促したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医以外でも本人様や家族様の希望に沿って往診や受診に対応している。	かかりつけ医について、契約時に事業所の方針を説明し、希望の医師で対応をしている。協力医の往診の他、歯科医や他のかかりつけ医の訪問もある。利用者の日々の状態を把握し、医師との連携で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で気づいた情報を医師や看護師に相談し、本人様に適切な受診や看護が受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する際は介護サマリーを作成し、の病院関係者へ出来るだけ詳細に利用者の情報提供を行い、医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様の意思表示が行える段階から終末期の過ごし方について本人様と家族様で話が出来るよう家族様に働きかけている。また、施設の性質上、医療依存度が高くなるにつれ対応が困難になっていく旨を、入所前に説明することで本人様や家族様にとって具体的に捉えるきっかけとなれるよう努めている。	契約時に、重度化や終末期の事業所の方針を、利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化した場合や終末期のあり方については、医師を含めて関係者が、早い段階で十分に話し合い、家族が納得できるアドバイスをを行い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、各ユニットに配布してある。消防署の協力の基、救急対応等の勉強会を施設内にて開催し、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、定期的に施設全体で避難訓練や消火器の取り扱いの講習等を行っている。また災害時には地域より協力が得られるよう、自治会にお願いをしている。	年2回消防署立会いの下、夜間想定を含めて、避難訓練を実施している。連絡網の確認、避難誘導、器具の取り扱いなどの訓練を行っている。地震や水害についても、地元の情報を確認しながら話し合い、備蓄品についても定期的に点検を行っている。	地域の人や家族の参加が多い運営推進会議開催日に、防災訓練を併せて行う工夫で、より多くの協力が得られる体制の構築を期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フランクな関係性を作りながらも、年長者として利用者様の尊厳を大切にすることを職員会議やホーム会議等で職員同士意識している。	個人の尊厳を守り、専門職としての自覚を持つことを職員間で話し合っている。個別対応の際にも、自分だったらどう感じるかを常に意識し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望については、可能な限り「ひとまずやってみる」という意識でケアの工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士が連携し業務をおこなうことで利用者個々のリズムを尊重できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者様について、洋服の管理・選択は利用者様個々にお任せしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事参加等の支援に力を入れるとともに、食事形態の可能な範囲で常食に近づけていけるよう努めている。	職員が、利用者と共に庭で育てた野菜や、近隣からの差し入れ等を利用し、朝昼夕と3食とも手作り食である。利用者も職員と楽しく話をしながら、調理にも関わり、準備や後片付けも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味の好みや摂取の癖の把握に努め、個々に合った食器の利用や配置を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の身体状況に合った方法で口腔ケアを実施している。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を職員が記入し、排泄パターンの把握・排泄状態の情報の共有をし、適宜自立に近い排泄ケアについて職員間で話し合っている。	トイレでの排泄が習慣になるよう、さりげない声掛けとトイレ誘導で支援をしている。自立に近い利用者も多く、布パンツやパッドで対応し、費用負担の軽減にも繋がっている。夜間は安全面に配慮し、ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンの把握に努め、適宜運動や腹部マッサージ等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に対する利用者様個々の要望を調査し、共同生活の中でも極力個人の意思を尊重できるよう都度行っている。	入浴は週3回の利用を基本とし、利用者に分かりやすいよう、入浴日をリビングに掲示している。入浴は、利用者とのコミュニケーションを深める場でもあり、利用者の希望を受け入れながら、楽しい入浴ができるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の妨げにならない程度に、昼寝や静養を行ってもらっている。また夜間の睡眠状況について職員間で申し送りなどを通して共有し、「本人様にとっての適度な休息」となるよう話あっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬局から提供される薬情報用紙に目を通し理解に努めている。また、看護師や先輩職員は後輩職員に対し適宜助言や指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初期対応や日々の生活から把握されていく本人像を尊重し、出来る活動・やりたい活動に取り組める機会を積極的に提供している。また、家事参加や庭木の手入れ・畑・裁縫など日々の生活の中でのやりがいの提供にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車等による外出は困難なケースもあるが、敷地内での戸外活動は日常的に取り入れている。また、家族様の理解・協力が得て本人希望の外出の随時受け入れている。	日常的に、ベンチで外気浴をしたり、広い敷地内を散歩している。また、近隣の店まで出かけたり、年間行事で、紅葉、桜、菖蒲など、季節の花木見物などを楽しんでいる。個々の希望外出は家族の協力を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方であれば自由に行っていたりしている。管理の難しい方についても認知症カフェの際に喫茶チケットを用いて商品交換をし擬似的ではあるが売買する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望を受け、相手方の了解を得られた場合は電話での通話を提供している。手紙の交換については投函は職員が代行するが自由に行っていたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には多種多様な利用者様がおられる為、刺激的な色遣いは避け、利用者様自身が作成した季節のポスター等を掲示するよう心がけている。	共用の空間は広く、車いすの利用者が安心して移動でき、長い廊下は、散歩のできない時や、歩行リハビリに利用している。ソファを随所に置き、健康器具も設置されている。写真やカレンダー、貼り絵等を飾り、自宅と同じように、穏やかに過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過度に交流を推し進めず、自発的な交流を陰ながら促していくように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真の持込を励行し、積極的に家族様にも促している。	利用者に分かりやすい表札を掲げている。クローゼットと洗面台が設置され、清潔に広く利用できる。使い慣れた家具、思い出の写真、好みのものを自由に持ち込み、本人が居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLや周辺症状について職員同士で理解を深め、家具配置や配置家具の個数や種類などについても適宜思慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591
法人名	社会福祉法人 樹心会
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 (長良の家)
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地
自己評価作成日	平成30年7月30日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(長良の家)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度、認知症カフェを施行している。家族様や地域の方の参加を促し、交流の場として開放している。又、日常生活の中で、生きがい・やりがいを感じて頂けるよう、出来る範囲での家事活動を提供し、関心のある話題等の提供も行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練や施設実施での防災・避難訓練時には、連携をとれるよう努めている。認知症カフェ開催時、地域企業のボランティアによる全体レクリエーションを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様などの面会時、意見交換を行い交流を深めるよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、家族様に参加して頂き、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内施設連絡会の研修に参加し、学んだことを職員と共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、勉強会を行い職員の身体拘束に関する知識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、勉強会を行い職員の虐待防止に関する知識を高めている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学び、対象となる入居者様には、制度に基づき対応を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書及び重要事項説明書に基づき、納得・理解して頂けるまで説明をし、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・家族様等の意見を聞き、不満や不安がある場合、解決に努めている。又、運営推進会議を行い、地域の方や役場関係者と意見交換を行い、連携を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ホーム会議を行い、職員の意見交換の場を設け、意見交流を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休暇を聞き希望に添い、勤務体制を行っている。又、業務態度や実績を考慮し、賃金に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会に参加できるよう勤務に配慮し、職員は勉強会に参加している。日常業務では、経験や知識がある職員が中心となり、新人職員の指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の施設職員連絡会の研修に参加をし、交流をしている。学んだことを、必要に応じと取り組み、日常業務に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の日常生活を見守り、いつもと違う行動や異変があれば、本人様の話を聞き、職員同士話し合い解決に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様・家族様から、性格・生活歴・要望・不安などを聞き、要望が叶うよう支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を行い、他のサービス機関必要なかどうかを話し合いをしている。必要な場合、他のサービス機関との連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が日中生活の中で、自立・自己決定・自己選択が行えるよう、本人様に選んで頂き、決めてもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時など、意見交流を行い信頼関係を築けるよう努めている。家族様の要望があれば応えるように努め、必要に応じ家族様の協力も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等、本人様と面会者様が気楽に話せるよう、場を設け配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が意見交換ができるよう、レクリエーションに参加して頂き、交流を深められるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、家族様の不安等があれば話を聞き、相談や支援のできる体制に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、様子や行動を観察し、いつもと違う行動などある際、都度話し合いを行い、必要に応じ本人様の同意を得て、解決に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やサービス利用の経過等を本人様・家族様等から話を聞き受容に努め、その人らしく過ごせるよう、支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、行動を記録し、職員同士情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議にて、サービス担当者会議を行い、ケアマネ・看護師・介護職員とで話し合い、介護計画を作成している。必要に応じ医師との連携を図る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・行動を記録し、状況変化があれば都度話し合い、介護計画書に反映している。職員同士情報共有も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化があれば都度話し合い、必要に応じ本人様や家族様とも話し合いを行い、ニーズに対応している。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを地域行事に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を定期的に行い、医療機関と連携をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の異変等があれば、医師に報告・相談をし、助言や指示の基対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時などの際、ケア記録をなどの情報を医療機関等に提出し、情報交換を行い連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々、医師との連帯を行い早期発見に努めている。また、家族様の想いを聞き、医療関係等と相談を行い、家族様に説明同意を得て、支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時に備え、研修会や日々の業務の中で、緊急の対応行動に対して、意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に、避難訓練を施行している。地域とも連帯を図り、協力体制に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者様に耳を傾け、想いや考えを聞き、理解に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・工夫を行い、入居者様が自己決定を出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のリズムを大切にし、入居者様と接している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪等、本人様・家族様の要望があれば行い、定期的に本人様同意の基、散髪を施行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に合わせ家事を分担提供し、声掛けを行い職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせ、食事形態を変え提供している。水分補給にも十分に注意し、行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合った口腔ケアを、毎食後施行している。義歯は、夕食後に洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の把握・コントロールの為、排泄チェック表を記入し、定期的にトイレ誘導を施行。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、運動を促し施行している。排便チェックも行い、必要に応じ医師と連携を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴して頂けるよう配慮を行っている。皮膚の状態・特変の確認をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整を行い、居室等で快適に過ごされるよう施行している。状況に応じ、ベッドで安心して休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を共有し、理解・服用をしている。変化がある場合、医師・看護師に報告を行い、指示の基支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの性格・力を把握し、家事手伝いやレクリエーションに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の意見を聞き、レクリエーション・郊外レクリエーションを施行している。家族様の協力が得られる場合は、外出外泊もされている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設が行っている。入居者様の希望等があれば、必要に応じ検討をし購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望がある際、都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室等の飾りを、季節に合った飾り付けを心がけている。カーテン・エアコン等を使用し、快適に過ごせられるよう、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、一人ひとりがゆったりと過ごせられるよう、配慮をしている。食事の席を、気の合う方同士になれるようしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の思い出の物や、家族様の写真などを飾り、その人らしい居室作りに取り組んでいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・お風呂場等に表札を設置し、入居者様に分かりやすいようにしている。夜間時、転倒リスクが高い方には、センサーを設置するなどを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591
法人名	社会福祉法人 樹心会
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 (揖斐の家)
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地
自己評価作成日	平成30年7月30日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(揖斐の家)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の「その人らしさ」を尊重したケアにあたれるよう、心掛けている。また、職員もその意識の向上を図れるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度、我が施設で認知症カフェを開催している。また、レクリエーション業者のご協力もあり、入居者様が一番に楽しめるよう、努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年1月に町内の施設連絡会の研修で我が施設主催で「認知症についてのケア」についての研修を行った。施設で実践している事、「その人らしさ」を重点に置いたケアについて研修を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施して、地域の方々及び、入居者・家族・職員を交えて、交流を図り、施設サービスの向上に活用できる会議をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内の施設連絡会に参加して、他の施設の職員や町福祉課の方とも、連絡を取り、情報共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月実施しており、各ホームの拘束に該当するであろう事象を話し合い、予防に努めている。またやむを得ない事象であれば、ケアマネジャーとも話し合い、家族様と協議する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の中でも、虐待について話し合い、接遇の改善や、虐待に関する知識の共有を行っている。虐待に関する講習を開催できるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護やアドボカシーについての研修を開催はされていないが、該当者に関しては、職員やケアマネジャーを中心に活用し取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前日及び当日に、所長及びケアマネジャーとご家族様とで、書類の確認や、契約の締結を施行している。並びに、本人様及びご家族様が感じたご不明な点を解決できるよう、行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、職員のほかに本人・ご家族・民生委員などを招き、運営等にご意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1度実施して、施設の現状や改善案を話し合い、協議している。また、職員の要望や意見を代表者が聞き、随時検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の希望休などを事前に聞き、職員が少しでも働きやすい環境を整えている。また、職員が大いに不足しており、職員募集にも力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内の施設連絡会が主催する介護研修等に参加を促している。また、職員同士でも入居者への気づきが共有できるように、双方に声を掛け合って、意識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の施設連絡会に定期的に職員が参加をすることで、地域や同業者と交流できる。又、それに参加している。研修も開催され、職員のスキル向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期的に入居者のサービス担当者会議を開き、ケアプランの見直しを行っている。その時点で、現在の入居者のニーズをくみ取り、本人様やご家族様の要望に沿い、更新を行っている。変更後、家族様や、本人様の了承の下、支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成にあたって、面会時や通信を通じて、入居者の現状を伝える機会を設けている。不安や要望等を、その時点で拝聴し支援に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つの支援やサービスにとらわれず、介護面や医療面および、ターミナル期まで備えた福祉の見方が出来るように、職員は心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の馴染みの生活作業(タオルたたみや食器拭きなど)を一人でやってもらうのではなく、職員も一緒に関わり出来るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員及び入居者間で、信頼関係を築きよりよいケアができるように心がけている。また、ご家族様との関係も大切にして、意見交流がしやすい環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	我が施設のみを生活の場にせず、時には気分転換を図り、馴染みの関係や場所(自宅など)へ外出に行ったり、ご家族様以外のご面会も、拒まず対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立せず、同じ生活の場を共有できるよう、レクリエーションや体操、皆さんで出来る共同作業など、そのような時間を提供できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族様との関係を持ち、今後のフォローなどを出来るだけ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご意見又はご家族の要望等を傾聴して、職員が可能な支援をさせて頂いている。出来るだけ本人の要望に沿ったケアをできるよう、心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の馴染みの生活や環境を本人若しくはご家族様から傾聴して、それをもとにサービスに工夫をしたり、援助をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者の特変及び、気づく意識の向上をしている。また記録等を活用して情報の共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様が今までなされてきたこと、馴染みの生活を崩さずに本施設で暮らして頂けるよう、本人様及びご家族のご意見を取り入れ、職員が会議にて考え、ケアマネジャーがケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ひとりひとりの動きや時には特変など、記録を毎日行っており、把握に努めている。本人様の訴えや言動を記録に落とし込み、日々の暮らし等を誰もが把握できるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務の内容に固執されるのではなく、本人様の要望やご家族様の意見を取り入れ、ケアに反映できるよう心掛けている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「しずやま」という自然豊かな地域資源(空間)を活用して、気分転換に外気浴で自然を感じ、リフレッシュしやすい場所でケアにあたっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2度のホーム内に町内のクリニックより往診を行っています。入居者の日頃の特変を申し送り、医療面のケアを連携して行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の特変に気づいたら、看護師及びケアマネジャーに報告して、必要時にはかかりつけ医と連携してケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院する際は、看護サマリーを作成して最低限の連携を病院側と施行している。また、入院中は病院での様子を確認するよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者がターミナル期を迎えた場合、町内の看取りケアの可能な施設若しくは病院と連携している。また本人様の希望、家族様のご意見を大いに取り入れ、素保人らしい最期を迎えられるようケアをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変について、職員(看護師・ケアマネ・所長など)の報告順や、救急搬送の旨のマニュアルを作成して、それをもとに実践・活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ほど、定期的に施設内にて避難訓練を開催している。また、施設の職員は町内主催の災害想定研修に参加した。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などに簾を使用し、入居者それぞれの個人の空間を大切にしている。時間を制限せず、入居者様の状態に応じてケアをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話を大事にして、徐々にコミュニケーションを構築して、自己決定や選択の判断がしやすい環境を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れは決まっているが、本人様の訴えや家族様の助言をもとに、意見を尊重して、要望を聞き入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に季節や気温の温暖差に合わせて、衣類の選択をしたり、職員が衣替えをしている。また、家族様の意見も取り入れ、本人様が着たい衣類を着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、入居者様のご厚意で、食器拭きやお膳拭きを手伝って下さります。職員と入居者様が連携して、生活上でそれぞれの役割を形成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録するとともに、毎月体重測定を実施している。そのほか、入居者の特変あれば、インアウトチェックも行い、改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケア介助を行っている。また定期的に訪問歯科診療を取り入れ、口腔ケア方法の指導や、各入居者の口腔現状を管理されている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様のADLや排泄状況に関して、職員同士で話し合い、適切な排泄パターンを見出している。また、QOLの向上に向け、排泄の失敗を減らせるような支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が便秘予防のための食材の成分等を理解して、入居者等に適切な声掛けをしている。また、排泄状況を確認し、看護師に報告し、必要時には服薬を通じて排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様のその日の気持ちや状態を考慮して、入浴の順番を変更したり、本人様の気持ちを尊重して行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者は、出来るだけ眠剤をしようせず、日中の活動量を増やし、夜間の睡眠時間を確保できるよう、取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の使用や変更点があった場合、看護師と連携して薬剤調整をしている。また介護職員も、町内の施設研修にて、薬剤の研修に参加した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日替わりにてレクリエーションを行っており、時には洗濯物たたみなど生活リハも取り組んでいる。また、行事も取り入れ、入居者と職員で外食に行くこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節が変わるころ、行事として入居者及び職員で、花見や外食に行く計画をして行っている。また、家族様と連携して、入居者様に帰宅願望あれば、帰宅外出も行っている。		

岐阜県 グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様において、必要なものか否かを職員同士で話し合い、購入等している。また、本人様・家族様とも相談して、随時購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、弊社より家族様へ向けたコメント文を通信している。ご本人様の様子や過ごし方、特変などを記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は猛暑が目立ち、日差しも強いいため、ブラインドを作成して役立てている。エアコンに関して、居室温度を時間ごとに確認して、過ごしやすい空間の配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席に関して、気の合う入居者、話が好きな入居者など、席の配置を考えている。また、入居者の特徴を考え、考慮した配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置に関して、本人様が馴染みやすいような配置を考えている。また、家族様とも話し合いを通じ、随時適応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に関して、入居者がより分かり易く自室だと判断できるように、大きくフラッグ状に名前を記入し、一目瞭然とした工夫をしている。		